

(様式 4)

令和 6 年 3 月 2 1 日

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立魚津高等学校  
校長 亀谷卓朗

令和 5 年度学校総合評価を別紙（様式 5）とともに提出します。

## 令和 5 年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、スクールポリシーを実現すべく、現状と課題を教職員間で共有し、「進路指導方針の理念の共有」と「魚津高校らしい指導の継承」を核とし、本校の現状とそれに対する本校教職員の問題意識の実態に即して、令和 3 年度からの 3 年間は

- ① 学習活動：生徒が主体的に参加できる授業への改善、家庭学習時間の充実
- ② 学校生活：18 歳成人に向けた、学校生活における意識の向上
- ③ 進路支援：生徒一人一人が自己のあり方、生き方を考え、学習意欲を高める指導
- ④ 特別活動：生徒の自主的・自律的な活動の充実
- ⑤ その他：図書貸し出し冊数の増加、生徒保健委員会の活性化

の 5 点を重点項目・重点課題として掲げ、それぞれに達成目標を設定して教育活動を行うこととしてきた。今年度はその最終年度であり、これまでの 3 年間を総括する意味合いのある年度でもあった。学習活動では生徒個々の進路希望が叶うよう学力の向上を目指し、授業の充実のため互見授業、公開授業、生徒による授業評価を実施した。また、家庭学習の習慣を身につけさせるため学習実態調査を実施した。学校生活では(1)共同体における人間関係、(2)人権、(3)学校生活のルール、(4)法律遵守の 4 つの観点について年に 2 度、自己評価を実施し、生徒一人ひとりの意識の改善・継続・向上を図った。進路支援では 3 年間を見通した進路指導計画を作成し、学習状況の把握をするために教科担当者を交えた学年検討会や出願のための進路検討会を開き、共通意識を持って学年だけでなく全教師集団による指導体制を作った。特別活動では生徒主体の学校行事の運営を旨とし教師集団は生徒の伴走者に徹し生徒の自主自立の支援をした。その他、図書貸し出し冊数の増加を図る取り組みや生徒保健委員会の活性化を図る取り組みを行った。

学校評議員からは特に生徒の自主自立支援のための取り組みが学校生活、特別活動の部分で奏功している点を評価する発言があった一方で、学習活動、進路支援の調査方法やデータの取り方に対する疑問、目標とする数値の妥当性についての言及があった。総合的に見て、生徒と教職員が一体となり計画的に教育活動が行われていることから、さらに魚津高校らしい充実した取り組みを継続して行って欲しいとの評価を得た。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

重点項目・重点課題を見直した上で、引き続き全教職員で学校の現状に対する共通認識を持ち、改善に向けた取り組みを継続していく。すべての学年が新学習指導要領となる次年度へ向けて、学習指導、進路支援、そして生徒の自主的・自発的な活動に対する支援の充実を図る。そのための方策として ICT の活用と互見授業の充実により主体的・対話的、教科横断的な深い学びが実現する授業のノウハウ共有と教師の授業力向上を図る。また、「進路探訪」や「海外研修」等、特色ある学校行事の充実を目指すとともに「総合的な探究の時間」に実施している「ディベート講座」や「キャリアデザイン講座」等を通じて、地域や大学と積極的に連携を取り、生徒がより広い視野、より高い見地で自身の能力を最大限伸ばしていけるよう全教職員が連携して生徒を支援する態勢の構築をする。